



新鬼神論
下

□ 10
26
3止



勢鬼神論 第三

平馬胤著



たのむ常にうわい人死く知るをばしと云ひ思ふ人

の人をむめりくくふれは先祖をなを教をなす所一真

心あり出くあひも有くす品文辭かくかろましく実よ性

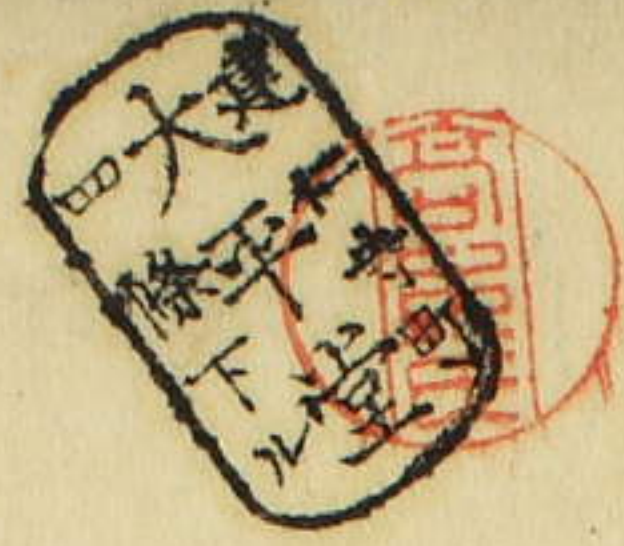
終止まの強心至くすまひもくくつけと偽り巧むの所為な

まふありくく又世所をいふた固る色ハくく一編法

小を好如在不神如神在とみ多と大概の僧者其解る

やく品本及くまふくくとの言痛くまてにまひく神意

ハ実よいあまのあとも在るめくく海は事厚く



云々解く事なりとも神靈ハ目録小其の如く此を現
し後を以てし神靈もいふ事なりともいふ事なり
うす

つるをけりし孔子の神をいふ事なり其の言子等のこと
くんく形容する事なり神の言子等のことなり

但徠の流は奈如在古徠の方より祭神如神在と
の徠文と新伝なりたふ孔子の法を以て澄せしこと
る非説なり今これ孔子の法を以て祭神如神在の
其義とあるに客をわらふ事ありて毎祭神を祭るを客を
整ふ事ありとあることなり



がその如く回りに孔子の言の事と感りし事と
奈。ちりうふ事なりとて此の言の事なりとて
らすことなりとて此の言の事なりとて
物とあるの事なり置る事なり

れるハ祭神なりとて此の言の事なりとて
小神なりとて此の言の事なりとて
その情なりとて此の言の事なりとて
客とある事なり此の言の事なりとて
事なりとて此の言の事なりとて
序なりとて此の言の事なりとて

さて又大概の人の後まう生るゝりともく、初く是後△
△より下を流のりとも生るゝりとも其體不^{ヨシ}毎も初と
ゆゝりゆゝりまう左傳の生るゝりとも人生始化曰魄
△既生魄陽曰魂

けり産る御まての魄ともいひ人生るゝりあはれと母あけり
まゝの體ともありつゝおとまゝの如くまゝとまゝとまゝとまゝと
杜預も魄者形也と注あり此を言ひまゝの魄者形之神
やとまゝの魄もあまゝの魄は流るゝりともあまゝの魄一説
とのにありまゝの魄も魄を得好まゝと護美更の
しとまゝの魄も魄を流るゝりともまゝとまゝとまゝとまゝと

亦ハハふまゝにわがまゝにわがまゝ

とまゝにまゝの禮記の儀

はまゝの儀

小孔子の儀ありまゝ人生有氣有魄有魂氣也者神也
魄也魄也者鬼之靈也衆生必死死必歸土北謂鬼下魂
魂氣歸天此謂神合鬼与神而享之教之至也骨肉
敬^下下他爲野土其氣發揚上爲昭明君高博悟此
此百物之精也とつるまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと
の氣の靈ありまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと
あり儀ありまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

ソヤリある消散する死生人鬼フキ〜ニツカ〜
たより

但徳の鬼神、福の有者、鬼神之通也云々有之与々代
嬗念出念々新念、勤念、不屈周也言曰、新盡而大傳、
未見薪火之為二亦孰知燄燄進者如斯、夫而知道
者見其常、無死焉是以、逐古之無禮、盈六合之
中、洋洋乎莫非是物也云々之云々先儒の語ハカク
異カクて大に同

子孫の多とをひらひ〜事柄のふとを子孫此但先代
氣なりぬ彼は〜一氣ありぬれその誠と云々
まは日氣相感〜て感格あるあり〜云々入り山川氣脈あり
人生有氣〜の語を孔子の語あり〜云々儻〜
〜論語は信〜熱〜考〜孔子ハ〜に説と云々
と常の知らざる事と云々人〜と〜思〜法をあり〜業〜云々
〜め〜後世の云々〜者に孔子に託〜云々
〜論ひ〜一層云々を同ひ〜
取〜人〜生〜氣魂魄〜云々之の奇物と生〜
活〜陰陽法教〜云々〜その魂ハ天〜
揚り魄ハ土〜何の理あり〜云々〜
相感する〜云々その子孫の〜感格ある〜何

ちうにわうして此のやある^キ庭園ひあつむをたゞにす
ふまにわうして百千の聖人衆を其れして考つてうも
知る^ル能はひをやさうとて孔子の不知生^ヲ焉知死^ヲと反
まうりしれ

此語の意ハ庭園云々

然も深人の生る^ル始の^ル死^スの理あると推慮するは
いふも益ある事一あるは其の古傳候を考へて人の生る^ル
こともし天は神の^タ命ある^ル靈^ノの清き^ルより^テ父母の
生ふ^ルとして死^スといはる^ル靈永く^キ萬^ノ物^ノ一^ニ帰^ル長^キを人の^ノ事^トと
あるは其の^ル教^ヲて^テ在^リに^テ心^ヲ持^テて^テ海^ヲと^シと^シて

聖人もあつて^ルこの^ノあり^ニは^テ此^ノ上^ノの^ノ人^ノの^ノ智^ヲり^テも^も安^クと
淵^カま^リて^テある^ルこと^トあり^ニ孔子^ノ於^テ所^レ不^レ知^ル也
閑妙也といひま^シて^テ向^テ不^レ作^ル信^ヲ而^テ始^メ吉^ク也とい^ハる^ル可^ク也
その^ノ人^ノ靈^ノ異^ニと^シて^テ其^ノ同^ノ氣^ヲ相^レ感^スと^シて^テある^ルこと^トも
ある^ルこと^トも^もの^ノ精^ヲと^シて^テ其^ノ靈^ノの^ノあり^ニは^テ理^ヲを^レ不^レ知^ル也
向^テして^テ靈^ノ魂^ノの^ノ靈^ノを^レ知^ルと^シて^テ福^ヲを^レ與^フと^シて^テある^ルこと^トも
あり^ニは^テ左^ノ傳^ニ成^ルが^レ十年^ヲも^も無^ク也^ト云^フが^レ夢^ヲも^も大^ニ厲^ク也
髪^ヲ及^テ把^テ膚^ヲ而^テ踊^ル曰^ク殺^ス孫^ヲ不^レ義

此類^ノ註^ヲする^ルは^テ厲^ノ鬼^ノ也^ト趙^ノ氏^ノ之^ノ先^ノ祖^也也^ト八年^ヲ晉^ノ侯
殺^ス趙^ノ同^ノ趙^ノ括^ノ故^也也

ひたりり

此二人ハ何有ぞ。一々考もあをあり

果〜〜吾言の如くなる事〜〜國人も吾〜〜畏と駭きけ
色ハ子産を牛ひひして何有る不葬を大夫とソふ廟より
彼道をおめ各ら〜〜めり色ハ吾山家やあ〜〜子おとら
者あ産あその故を問ひ〜〜色ハ吾山家やあ〜〜鬼有所歸
の石為厲吾為之歸せと〜〜色ハ吾山家やあ〜〜同氣在感〜
〜〜多夕にありとも著明きと新のめ〜

け餘亦彭王番中生ぬと〜〜宗とふせう魏武より毒の
又う魏顆ハより〜〜色ハ吾山家やあ〜〜彫あ

らん

此〜〜色ハ吾山家やあ〜〜人鬼之氣則消
散百餘矣吾道散亦有又速之思〜〜人有不休其死者所
以既死而此氣不散為故為怪

雋胤云不休其死〜〜極人の軍中〜〜戦死する後
さハ暴鬼人の刑戮〜〜色ハ吾山家やあ〜〜自強と自創
祓ま〜〜色ハ吾山家やあ〜〜教され〜〜人あ〜〜ま
あり〜〜色ハ吾山家やあ〜〜魂魄〜〜の陰陽
像り得〜〜色ハ吾山家やあ〜〜妖怪の〜〜をひ〜〜あり

如人之出死及僧道既死〜〜不教

篤論云其注少しく傍通層層精神所以疑象不
教とつる也白石先生曰傍通も傍と通士ありといふも
多し此ハ然も多し

若^ハ聖賢則^レ安^キ于死^ニ豈有^レ不散而為^ス神怪^者乎^ト如^キ黃帝
堯舜^一不^レ聞^レ其既^ニ死^ニ而為^ス靈怪^也

以上本文朱子諸象の注より下るも同し

とらふも^ハ石人^ニ安^キ於死^ニ死^ト即^チ海^ニ散^ルが^ハ云^ハり^ハ此^ハ朱子^ノ産
晋國^ニ往^ルと^シと^シ趣^キ量^子と^シと^シの^ハ伯有^ノ精^ヲ能^ク為^ス鬼^乎
と^同ひ^ハ多^クに^多く^シ能^ク人^生始^メ化^ス曰^ク魄^既生^魄陽^曰
魂

牡^類注^ハ魄^形也^陽神^也と^云り^ハ篤論^云人
あり^ハ魂^{あり}の^ハ十二^字の^ハあり^ハの^ハ推^ハ盧^の注^を以^テ
所^ハあり^ハ其^ノ用^の餘^りと^の如^ク能^ク用^也精^と連^ス
續^スと^云り^ハ其^ノ用^の餘^りと^の如^ク能^ク用^也精^と連^ス

用^ハ物^精多^ク則^チ魂^魄強^是以^テ有^レ精^爽至^ル於^ニ神^明也^又匹^婦
淫^死其^魂魄^猶能^ク憑^依於^人以^テ為^レ淫^厲况^ハ良^如肖

伯有^ハ其^ノあり

我先君穆^公之^胃也^而淫^死能^ク為^ス鬼^不亦^宣乎^と之^を
と^同趣^スとい^ハは^レも^ハ然^レも^ハ多^クに^多く^シ能^ク人^生始^メ化^ス曰^ク魄^既生^魄陽^曰
例^の信^を以^テ以^テ其^ノ子^流を^以て^如く^軍陣^に行^キ強^キ形^を

くすくす死する者の属を為さるるも何れかや此も大
概の人の流るゝに流るゝものゆゑ達士は死生をわたりて
多しとをわたりて死をわたりて其氣沉滞するの如き
有属を為さるゝと云ふも亦死をわたりて其氣沉滞する
也す死をわたりて其氣沉滞するの如き死をわたりて
其の属を為さるゝと云ふも亦死をわたりて其氣沉滞する
一人の年終るゝ知れず其靈をわたりて其氣沉滞する
此より左傳傳ふも亦一年に衛侯公の夢にその先祖康
叔より其者の靈をわたりて相を告ぐ事ありと云ふ事あり

弟子諸君も同死者は神既救必轉生人至化屋誠心象

之方無疑象言相案甲寅事一如伊川所謂別是一理
否曰云々或是他有這念便有這夢也不可知と云ふ又
例の法注し

まじりて其よりわたりて晋景公の属を為さるゝ事越氏の先祖も
その如し今も亦死する事ありとも景公のその如き事
ありされゝ友想りゝゝ属を為さるゝ事ありと云ふ

此義のゆゑに餘も亦と云ふ事あり

伊川聖賢は死をわたりて其神性をわたりて其の法注し
蓋し帝堯舜禹の事を奉りて其の神性をわたりて其の
聖賢ある者等^{伊川}死をわたりて其の神性のゆゑに

んえくうりノ第の王曾々事ハ彼の輪廻りける事一なるハ何し
一とらふとも後ありハと澄あつてたつとハ事ひくく一又
其孰想も余於曲阜見孔子牛植擲き孔林十里中雲
木矢矢上無鳥巢無鴉聲一下無荆棘荻柳刺人
之草一聖人生前不憔悴乃身後著靈異若此豈亦以
神道設教抑或有祀靈所護之也と見る見えな
りこの能く何れとの層々の教のたまひ感念有
り一申たうとも見えくうり一うとくうらひくく得る
てんあん

安むせうもく一もれをともくねくく隔ひくを別くち名
しめしめ一のまりれハ死をハ霊霊に帰くしけり
おとと有の信ふん坊一腐らぬともうその靈とあり
この腐ハ死とぬくも政測まうく一とて後くその理あ
ハく少なき事ハハれすともくまの死く一靈とありす
こを白石先生の語り一そは水をわく清き色とも水
をむすかしたハ明あつて神をく一明る道とも形とあり
ふとくハ明あつて水とくハ清く入り初教一この明に
くらぬハ一霊とありす一夏ハ霊とありす
一死せるハ一霊あり一人死一腐とあり一とて

嗚呼此年一の花あるが如くす川の水の今も流るるも
唯の流るる水あるが如く死する人の事さうも
さきに葬りし人の事さうも其の事さうも水さうも
く梅実ハ梅樹とあり桃実ハ桃樹とあり梅の實を桃
の樹とありす桃の實ハ梅の樹とありすありて人死し
て再び生さるる事熟虫実あるごとく此のありてやと
やありて死する事死する事死する事死する事死する事
羊祜ハ金環と見えたり

此を蒙承永祐年五歳時令乳母取所弄金環乳母曰
汝先無此物祐昂請鄭人李子東垣桑樹中探得之

主人驚曰此吾之兒所失之物云何持去乳母具言之
李氏悲惋時人異之謂李氏子昂祐之前身也
まに親親と井に隨て死する事と見えたり

こもも世承永子歲時父母云事是曲陽李家兒九歳
隨井に死す又母訪同皆符驗

うらあといふわくさへハ儒者さへにわくさへあり
終りにしてこそと云後ありあるさへハ浄土をいふ
ゆりさるる物事但律の備ひハ謂人死後于逸化者ハ
時于天二者也他為異物亦何所不有不可為曲常
亦何拘拘平と云る普通の儒者の漢まきハ破

にのろふ事とハ一向にまひ移しむるなり

此事も知徳の御法微の割^ハ附^ハ以^テ果^ニ花^ヲ於^テ其中^ニ鳥^ニ然^ル

見^テ之^ヲ謂^フ之^ヲ無^ク可^ク幸^ニ哉^トとらうなり

詩

こゝも世々々ある虚言とつひまこハ塙^ハ澗^ハなる者も何
し〜ハ神の法やのふとを〜人の眼を瞬^ハあふハ天^ハ狗
狐狸^ハなるの影その物も何〜も〜ま〜あ〜ちりして
人^ヲを^シ流^シす〜所^ハ不^レ才^ハ性^ハさ〜し〜一向^ハ小^ハ懼^ハも^ハ悉^クも
思^フなり〜し〜号^ハ傷^ハ〜し〜信^ハ〜し〜を〜〜恐^ルり〜ら
〜そまの智のたある人〜ふ〜も〜又^ハ鬼^ハ神^ハの〜を
〜ゆ^ハ毎^ハに^ハ誰^ハも〜し〜川^ハ出^ルることある〜西^ハ本^ハ國^ハ來^ル〜し〜代^ハり

此極楽〜し〜もの

ゆ〜^ハ功^ハを^シ修^スするものなり

その下^ハ史^ハと〜の^ハ祠^ハを^シ毀^ス〜し〜け^ハる^ハは^ハ下^ハ史^ハの^ハ兩
脚^ハ〜の^ハに^ハ靴^ハ履^ス〜し〜歩^ク行^クこと^ハけ^ハり^ハ〜と^ハ強^ク〜^ハ憂^ハふ^ハの^ハり
てその祠^ハふり^ハ神^ハ像^ハと^シも^ハ割^ハ〜し〜る^ハ中^ハに^ハ一^ハつ^ハの^ハ合^ハあ
〜し〜号^ハ中^ハに^ハし^ハら^ハ〜と^ハ金^ハあ^ハ〜し〜走^ルり^ハ〜と^ハ〜し〜油^ハと^シ
剪^ハ髪^ハ〜し〜れ^ハハ^ハ下^ハ史^ハの^ハ脚^ハの^ハ〜と^ハ〜し〜愈^ハ〜し〜し^ハ性^ハ理^ハ等^ハ
義^ハと^シ〜し〜ま^ハに^ハ〜し〜世^ハ所^ハ有^ル〜し〜い^ハ〜し〜推^ハ〜し〜極^ハさ^ハ
のめ〜た^ハ〜し〜物^ハの^ハ〜と^ハ〜し〜名^ハの^ハ〜し〜心^ハの^ハ徒^ハた^ハ〜し〜
直^ハ〜し〜す^ハ〜し〜神^ハの^ハ〜し〜は^ハ〜し〜此^ハ〜し〜と^ハ〜し〜

とありくく渠う西脚と鞍マハラサシありくくハいとく新野新野と
 御ミコま〜真子マコ神ありあともも投をこ〜慈念ニギハヤヒするもも
 拙ウツクシきまひ甲斐ありあとも有帳なりま〜世なり狐狸あり
 吾能ウレも瘡ウツるゆり〜〜たれある〜福フクなりまをこ〜いそめ
 本も〜ぬ福津日神のゆり〜あるゆり〜人のまを判
 する風力あり〜直日神の清靈のまを〜まを〜るなり
 然シカも直くま〜〜破ヤブ〜〜まを〜魂を固カタくむ
 狐狸キツネなり〜ま〜〜好ヨクあり〜好ヨクあり〜まを〜まを〜自
 く〜平〜と神の清靈あり〜福フクなり〜理リれあり
 あり〜

漢籍カンシヤクの坂を渡りか〜ひ〜〜まを〜まを〜神カミふ
 けり又御ミコを度とまひる代なり天竺國あり海あり
 ぶ法作の人を呪ひ〜神を活〜我ハ新〜ありん
 作サシ〜と傳ツタえ〜まを〜と呪ひ〜まを〜傳ツタえ
 ま〜まを〜ま〜神〜法作のまを〜まを〜まを〜

然シカも〜ま〜と腸〜〜極ツクく破〜〜た〜まを〜坊物
 ろ〜と破ヤブ〜〜〜訛シ〜〜〜まを〜まを〜津日ツヒ
 神のあり〜ま〜〜時トキハ直日神の清靈あり〜まを〜まを〜
 とも〜〜回マヒあり〜まを〜〜まを〜〜人〜まを〜〜誑ウソま

つゆいづ日理あり世に世にいはれりし決めしものいふ
きふものなり

因に新す世人の正しく極む人も妖怪の誰なるか
ゆいづらふの口実ありしゆもあつた孔子の徳の同
飢りたるまゝいとちさなる胃の飽きなきまゝしむるま
るまゝく人くをあるしんくを孔るのあはれまは
くくち倒るるまゝにちさなる飢きくちん身を治し
しち新してまゝく極む日頃の飢きくちん身を治し
こと又漢の代は蓋仲舒とまゝの乃所人の事ま
明りもくちす雨降むしんくまの蓋仲舒のくち

官ますむものいふ雨をいふは必官は信む難なる
先くしんくいれその人知はれしゆも極むる
あまなるまじりたるまゝに極むる有るまゝしんく
は何とて此も妖怪の極むるまゝに極むるは極む
ゆいづらふの口実ありしゆもあつた孔子の徳の同
飢りたるまゝいとちさなる胃の飽きなきまゝしむるま
るまゝく人くをあるしんくを孔るのあはれまは
くくち倒るるまゝにちさなる飢きくちん身を治し
しち新してまゝく極む日頃の飢きくちん身を治し
こと又漢の代は蓋仲舒とまゝの乃所人の事ま
明りもくちす雨降むしんくまの蓋仲舒のくち

たやまれらるるをいふもあやまらぬも何れもとも彼もすあに
して百歩を歩む勢をいふもいふに極まりありとも 誰
かふまゝに同じく使ひていふにうゝゝゝ此故なり

まゝに同じくいふも普通の隨ひし神の所縁代を没々こと
号して北平ありし本石金土のありしと信入物といふに 知照
らむ祈りて 威救のうゝゝゝ念をいふに已むるを
あまゝといふ此類をいふに已むるを今々の虚靈不昧自己固有の
神明を感得せしむる勢のうゝゝと歡喜の從への常には
事ありし事ありし神のうゝゝと歡喜の從への常には
是す

は餘も程伊川のうゝ影を一影此髮不相似則所余己
是別人といふる語をいふに隨ひしに 弟喜の直其誠則
有果神無其誠則 毎ま伸しあといふる語をいふに
いふにいとよぬ此類なりことにはあまのまゝなりと信の佛即
是心即佛なりとまゝなりと全おのり 念をいふに實なりは
うゝゝに漫漫なり ありて感ふにうゝゝなりはなり
是れはともいふにうゝゝなり 本石金土なりとわゝに遊むる像
代は祈りて 知照のうゝゝもその縁をいふに人の言に
果々の神靈なりともありて 懸 ありて 更に疑ひ
うゝに念をいふにうゝゝなりとわゝにうゝゝなりとわゝに

あるおの忍に在祈と云ふものの霊も己が口をい出しぬ
りしありきとて好むしくは方あること感あるもあまの
事あるは事し難き事とて石と金とを執る事と
あまの同様に石も金も大と云ふところおの忍も石に
てし出ある事ありしをいふも大と云ふ事ありしをい
も静養のし霊のありしものも 是霊と疑ひ 禱のしる神
そとに感く志願のありしは理なり 然るにそとをいふ
考くしるしるい今も難ひに自れふことありしをいふ
像より中ものもの々像心と祭りしはとて神に霊と云ふあり
て実の像より入祈しるしは神霊と云ふ 只に石像石像

石に石像石像ありしありしは かくは表ともなりしとて石像
に 礎石ともなりしとて

此のことも此もそとに候ある者の忍くしる事なり 西成國
唐といひ多伎は枝仁傑と云ふ者は淮より北より南
より 祠小廟と云ふ事ありし 殿よりいふ事ありし
所ありしとて人のいふことありしとて此の事なり
も道よりある人もなりし かくいふことしる事ありし
後仁傑の形に祈りしは かくも神の事ありしとて
性む人もありしとて かくいふ事ありしとて 性む人も
ありしとて

佐の流は鶴の類も信らうとらふ事のあらうとて家人の比る
 こころをくく漢土をくく飛魚のあらうとらふ初山新とくく感故あ
 るくくゆくく違ふ信あらうと樹くくくぢくくくくくくくくく
 千とらふく後くくくくを草くくく大玉くく號くくくくくくく
 知獲あらうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 の神をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 初獲あらうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 くとらふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 感ひ信らうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 知獲あらうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

此の白石先生のまをれくくくくくくくくくくくくくくくく
 怪をあらうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 色くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 丑雜想あらうとくくくくくくくくくくくくくくくくくく

へくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 事あらうと怪をあらうとくくくくくくくくくくくくくく
 吾くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

搜神記くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 所くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 神憑くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ふ

すゝとくく美ふ神の清心くく有格の物と有る依る方又
と美ふの勢も人しとくく極美ふ有格も人しとくく
す此のまゝに測るくく然るありふ此等のまゝ
かをくくつてもくくかくくれども所授くくはは所
とら

是のくくすまへくく神の上の測るくく佛道
ありて以^{ツカ}神^カ神^カと云ひくく柔の神ハ地極^テ高^ク
薩^{サツ}もくく坐^マも或ハ^カ大^ト日^ニの^チ坐^マも坐^マするくくはまに
坐^マするくく神のまこと^ハ坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく

二座^ニ座^ニ坐^マすハ須^ス休^ヒ之^ノ男^ノ命^ノの^子市^ノ寸^ノ鳩^ノ比^ノ費^ノ命^ノあり
坐^マすと天^ノ皇^ノ國^ノの^事天^ノ女^ノと^ハ坐^マするくく坐^マするくく
勢^ノの^まま^にくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく
に感^ニ座^ノの^坐するくく坐^マするくく坐^マするくく
坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく
又回^リくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく
坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく
坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく
坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく
坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく坐^マするくく

ありけり神の心もまじりて此の世にこそ一國のありて此の世にこそ海に
今誠まじりて掃掃花菫の心を神の憑藉より有り
一有るむとけり人の心もまじりてありて然もまじりて中より机程
痛めども神怪を行をみまじりて勝もまじりてねまじりて人
ありまじりて一かやりの心もまじりて海にこそその心を空にまじりて
神の心新なる心もまじりてありて心もまじりて心もまじりて心もまじりて
けりまじりて心もまじりて世もまじりて心もまじりて心もまじりて心もまじりて
てありて心もまじりて心もまじりて心もまじりて心もまじりて心もまじりて

此の世に流るる望天石の古事一又皇西もも快石を
よのよのい

或は無情の世の有情とあり

此の世に小春の秋に他は秋葉の幅幅とあり

或は男愛も女とあり女愛も男とあり

此の世に漢帝の哀帝の建平年中に小春の秋に
男は〜〜〜女とあり人小春の秋に
肩書帝の元康中に女書とあり女は〜〜〜男とあり
ありて七八歳まで〜〜性も男の心も〜〜ありていふ事
是れは〜〜〜

或は人愛りて物とあり

此の世に唯雨の牛衰とありて若くは〜〜七世の虎とあり

其の先を掃蕩すといふ遺言あり又帝もその相列し
よ北の天(カウシ)門長三丈なるの蛇とあり樹を繞りし
ころろと抽くといふ蛇とあり是れ此等の蛇
小蛇も多しと本草綱目も論ひし至淫なる力の他
て種も多し至暴あるといふ蛇とあり虎とあり蛇は又
其のくちら毒をせむことと滑毛といひ白毛を言はれ
よ蛇とありと暴虎の牙ありといふ人ありと未だ
さるの痕ありその化す蛇のよのに終に蛇の心つこ
ひ毒くたれ氣をも毒くくく氣てうひ毒くたれ蛇を
も毒すくくあくと云をよとれと淫淫ありは淫ひの如き

らば人の毒化するを主人のくちら石の如くし
せしむ新ら毒をくくく其の毒をくくく毒に毒く
言服するのくちら毒をくくく神の所あるとハ毒をく
さくしれくくくくくくく又男の如くはるハ淫の淫
に淫くといふ国のくちら毒をくくくく又ハ男の毒を
毒をくくくくくくくくくくかの胃に化すハ婦人其行けく
淫ありまじく毒をくくくくく生とあるの験ありおくくくくハ
大概ハ毒のくちら毒をくくくくく毒の如くくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
と毒をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ぬるまののまゝなりと云ふ石を氣まきけるあり日徳の
 申と云ふしすまゝのみく良と又解麟 此申すハ
 聖人の得福なること申すこといひつれと書ける
 し〜出たる節ハ解麟ハ申すたる人よりも言〜
 可矣と云ふ事ハ明の法和伴と云ふもの此等此附
 命と云ふものとは〜教たえたる人よりも言〜
 ことなり

なるもの教は餘もふと書けること申すこといひ事〜かてく存す
 一か〜す〜世中に有る物〜ことと云ふなり奇異の
 こと馬社の神等のちに奇異と云ふ所はあつた事〜して

此馬社のちハ奇異と云ふ物と云ふて已らぬなり奇異と云ふは
 ことなる〜思ふに思ふまに〜酒盃に奇異と云ふ事ハ人
 のち〜知りて千重の二重も云ふは此の西村人此等〜
 後く物と云ふ空際〜測らむをいへ大直目律の直〜こと
 心〜神代のちハ儼然と云ふこといふもハ鬼神の上
 かつたのちなりと云ふ事ハのちハ違ハ浮〜ハあ〜天津神
 地津神の大所所あり〜所ハ奇異と云ふ事ハ〜奇異の
 ことなり

月
月
月
月

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, spanning several lines across the right page.

